

ミヤジマトンボ希少個体群保護林

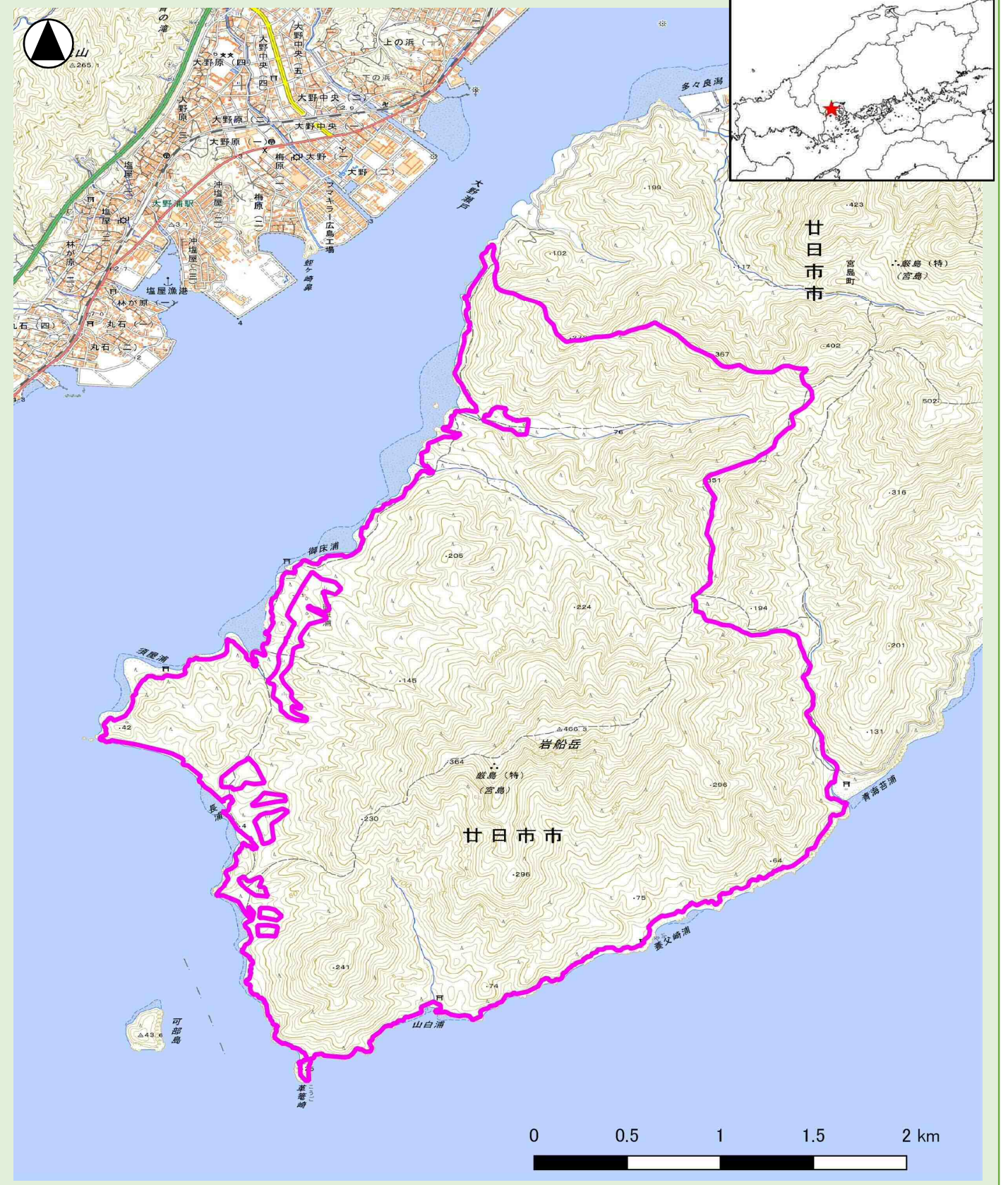
管轄森林管理局・署	近畿中国森林管理局・広島森林管理署
所在地・面積	広島県廿日市市 ・ 1,390.75ha
設定年	平成26年4月1日設定、平成30年4月1日再編に伴う名称変更及び管理方針書設定
保護林の概要	<p>当該区域は、宮島の南西部に位置し、世界遺産である厳島神社や国の天然記念物である瀾山原始林のバッファゾーンとなっている。宮島は面積に比べて、南方系の植物を基盤に多様な種が生育しており、ヤマモガシやホウロクイチゴ、カンコノキ等の分布のほぼ北限となっている。</p> <p>森林植生は、ミミズバイやクロバイ、コバンモチ、アセビ等が優占する照葉樹林やアカマツ林の他、尾根部の一部にツガ群落が成立し、昭和59年の林野火災で森林が消失被害を受けた場所ではアカマツやクロバイ、ヤブツバキの低木が散見され、コシダ、ウラジロが繁茂したウラジロ-コシダ群落等が形成されている。</p> <p>海岸に面して開けた谷の谷底にミヤジマトンボの生息湿地があり、山間からの湧水を水源とし、水際にはヒトモトススキやヨシが生育している。</p>



モニタリング調査の概要

実施年度	令和4年度
調査項目	森林タイプの分布等調査、樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、野生生物の生息状況、山火事等災害発生状況調査、病虫獣害・気象害発生状況調査、保護対象種生息状況調査、利活用実態調査、管理体制実態調査
結果概要	<p>保護対象種であるミヤジマトンボの生息が確認された。</p> <p>今回調査したシイ・カシ二次林、アカマツ群落の森林は、現状において原生林および自然状態に近い二次林が維持されているが、林野火災跡地においてはシダ類が繁茂して自然回復が進んでいない。また、下層植生にニホンジカによる食害の影響が見られた。保護林内の下層植生が貧弱となり、不嗜好性植物であるコシダ、ウラジロにも食痕が確認される等、群落の維持・更新への影響が懸念される。</p> <p>これらのことから、当該保護林はニホンジカによる森林被害が顕在化している地域と判断される。</p> <p>その他の病虫害・鳥獣害・気象害として、イノシシによるミヤジマトンボ生息湿地への影響とカワウのコロニーが確認されている。</p>

ミヤジマトンボ希少個体群保護林 位置図



保護林内での注意事項

- ★貴重な植物群落の保護にご協力ください。
- ★植生の荒廃防止のため、歩道を外れて歩かないでください。
- ★許可なく動植物の捕獲及び採取をしないでください。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。